

2022年2月21日

報道機関各位

株式会社北日本銀行  
株式会社岩手銀行

## 第19回「リエゾン－I 研究開発事業化育成資金」の贈呈について ～「いわて産学連携推進協議会（リエゾン－I）」の取組み～

北日本銀行（頭取 石塚恭路）、岩手銀行（頭取 田口幸雄）では、両行が参画する「いわて産学連携推進協議会（リエゾン－I）」のおもな活動として取り組んでいる「研究開発事業化育成資金」贈呈事業において、19回目となる今年度の贈呈先を決定しましたので、下記のとおりお知らせします。

### 記

#### 1. 今年度の贈呈先について

##### (1) 贈呈先企業

今年度は、7社に対し合わせて1,000万円の贈呈を行いました。

| 企業名        | 代表者   | 共同研究機関                 | 贈呈金額  |
|------------|-------|------------------------|-------|
| ㈱クオントディテクト | 西塚 哲  | 岩手医科大学                 | 200万円 |
| (有)泉澤水産    | 泉澤 宏  | 岩手大学                   | 200万円 |
| (有)ベルモデル   | 鈴木 昭美 | 岩手大学                   | 150万円 |
| (有)田鎖農園    | 田鎖 高紀 | 岩手県工業技術センター            | 150万円 |
| 府金製粉㈱      | 府金 慶  | 岩手県工業技術センター            | 100万円 |
| n o m o s  | 内澤 啓太 | 岩手県工業技術センター            | 100万円 |
| ㈱國洋        | 濱田 浩司 | 岩手医科大学<br>岩手生物工学研究センター | 100万円 |

※ 贈呈対象となった具体的な事業計画等詳細は、別紙『第19回リエゾン－I 研究開発事業化育成資金』贈呈先一覧のとおり

##### (2) 現在までの贈呈実績

第1回から第19回までの贈呈件数金額は、延べ131件1億7,950万円となりました。

##### (3) 贈呈式の開催

2021年2月21日（月）に岩手大学構内（コラボMIU）で開催され、7社の代表者に認定証の授与および目録の贈呈を行いました。

#### 2. 「いわて産学連携推進協議会（リエゾン－I）」について

(1) 大学等の研究シーズ（新たな技術等）と企業の技術・製品開発等のニーズをマッチングさせることにより新事業の創出を図ることを目的に平成16年5月に設立し、現在、3金融機関と10研究機関が参画しています。

(2) 「リエゾン－I マッチングフェア」の開催、北日本銀行と岩手銀行による「リエゾン－I 研究開発事業化育成資金」の贈呈等を主な活動としています。

## 3. 「リエゾン I 研究開発事業化育成資金」の贈呈について

### (1) 創設目的

- ① 企業等が有する技術開発・商品開発のニーズと大学等が有する高度な技術研究成果とを共同研究等を通じてマッチングさせることにより、中小企業の「高付加価値」を通じて「事業の多角化」や「新たなビジネス創出」を積極的に支援するものです。
- ② また、この育成資金を呼び水として、企業等が大学等にある「事業の芽」「技術の種」の事業化に向けた研究開発に積極的に取り組むことを期待するものです。

### (2) 対象先

- ① 「リエゾン I」に参加している研究機関との共同研究により新たな事業化を目指している企業等で、企業等の所在地域は、岩手県、青森県、秋田県、宮城県とします。
- ② なお、地域の中小企業支援の観点から、証券取引所上場会社およびそのグループ企業等は、原則として応募できません。
- ③ すでに受賞したことがある企業は原則として申請できませんが、つぎの条件を満たす場合のみ対象とします。
  - a 過去に受賞した事業計画の内容と重複していないこと
  - b 過去に受賞した事業がすべて事業化されていること

### (3) 贈呈金額

- ① 年間贈呈額 1,500 万円を上限とします。
- ② 1 先あたり 200 万円を上限とします。

以 上



< 本件に関するお問合わせ先 >

北日本銀行営業統括部 中 村 TEL : 019-626-6533

岩手銀行法人戦略部 八重樫 TEL : 019-624-8427

## 第19回「リエゾンーI 研究開発事業化育成資金」贈呈先一覧

(2022年2月21日贈呈)

## ○ 株式会社 クオントディテクト

代表者：代表取締役 西塚 哲

住所：(本社) 東京都千代田区大手町1丁目7-2 東京サンケイビル27F  
(盛岡支店) 岩手県盛岡市中央通1-7-35 コアフィールドモリオカ1-3階

事業計画名：個別化がん再発追跡検査および検査試薬の開発

共同研究者：学校法人 岩手医科大学 医歯薬総合研究所

特任教授 西塚 哲

計画の要約：がん患者特有の血液中のがん由来DNAを追跡することで、がん治療後の病変を評価することのできる新技術。がん治療をナビゲートすることができる新しい概念のゲノム検査の社会実装に挑戦します。

贈呈金額：200万円

## ○ 有限会社 泉澤水産

代表者：代表取締役 泉澤 宏

住所：岩手県釜石市東前町19-10

事業計画名：浮沈生簀を活用した養殖抱卵ギンザケの開発および量産化

共同研究者：国立大学法人 岩手大学 三陸水産研究センター

センター長 教授 平井 俊朗

計画の要約：秋サケ水揚げ減少に伴いそれに代わる加工原魚としてギンザケを生産し、地元地域への安定供給を目指す。本事業はイクラや筋子といった魚卵の利用を主目的とし、付加価値の高いサーモン養殖を行い漁獲収益の向上を図る。ギンザケの生育の適水温は18℃以下で20℃を超えると死に至る、表層の生簀を沈下させる事で生息可能な水温を確保し10~11月まで養殖期間を延長し、4~5kgまで成長させる事でメスは抱卵し既存のギンザケと比べ2倍程度の市場価値になるものと想定している。生簀は日東製網(株)、ECOS E A社と使用契約を締結し、チリの特許技術を利用、岩手大学のとの共同研究を行い、販売評価、品質評価、市場性評価、ブランド化等、各種の分析検討を進めて行く。国産の鮭の魚卵を安定的に市場に供給することは、三陸沿岸の魚卵加工業者への貢献度が高いだけでなく、一般消費者に対しても貢献できるものと考えられる。

贈呈金額：200万円

## ○ 有限会社 ベルモデル

代表者：代表取締役 鈴木 昭美

住所：岩手県奥州市水沢羽田町字谷木37-1

事業計画名：南部鉄器の古里から「高強度・高靱性アルミニウム鋳物」を開発

共同研究者：国立大学法人 岩手大学

理工学部 物理・材料理工学科 教授 水本 将之

計画の要約：本研究にて現の特許「高靱性アルミニウム鋳物」の進化を図る。鋳型中で発生する酸化物の「バイフィルム(不良原因)」の課題を解決し「高強度・高靱性アルミニウム鋳物」を開発する。軽さに強度と粘り強さを備えた最先端の新素材と鋳造方で、市場規模が特に拡大すると予想される半導体・医療機器・EVの超精密アルミニウム製品に展開する。

贈呈金額：150万円

## ○ 有限会社 田鎖農園

代表者：代表取締役 田鎖 高紀

住所：岩手県盛岡市三本柳24地割19

事業計画名：地域特産品活用「地マッコリ」の製造販売

共同研究者：地方独立行政法人 岩手県工業技術センター

主任専門研究員 中山 繁喜

計画の要約：県産オリジナル品種の大豆を使用し、麦・麦麴・銀河のしずくなどの水田転作作物による冬場の高付加価値商品を開発し商品化する。全国でもめずらしい発酵菌非加熱による生マッコリを製造するもの。

贈呈金額：150万円

## ○ 府金製粉 株式会社

代表者：代表取締役 府金 慶

住所：岩手県岩手郡岩手町大字川口17-5-1

事業計画名：麺製品への食感変化および食パンの最適レシピの開発

共同研究者：地方独立行政法人 岩手県工業技術センター

主任専門研究員 武山 進一

計画の要約：紫波町で栽培されている「もち小麦：もち姫」の小麦粉を全国に展開するための基礎研究。小麦粉加工品に配合することで「もちもちの食感」が付与できるもち小麦について、食感変化を配合率と製法の確立により、新規開拓と販売量の増加を狙い、県産の小麦消費拡大を図る。

贈呈金額：100万円

## ○ nomos

代表者：内澤 啓太

住所：岩手県滝沢市大釜大畑69-2

事業計画名：「冷凍・冷蔵庫用」接触感染防止用ドアオープナーの開発

共同研究者：地方独立行政法人 岩手県工業技術センター

上席専門研究員 園田 哲也、上席専門研究員 長嶋 宏之

計画の要約：本事業の開発品は食中毒防止に活用できる新たなドアオープナーの開発です。きっかけは、保健所職員から、「ドアオープナーは食中毒防止にも役立つだろう」というアドバイスを受けたことです。具体的には、食中毒の原因として、冷蔵庫などの取手に接触感染する経路があるという事例を紹介していただいたことから、今回新たに冷蔵庫に特化したドアオープナーを開発していくものです。

贈呈金額：100万円

## ○ 株式会社 國洋

代表者：代表取締役 濱田 浩司

住所：岩手県大船渡市大船渡町字下平4-1

事業計画名：桜こあみパウダーの事業化に向けた取り組み

共同研究者：学校法人 岩手医科大学 教授 弘瀬 雅教

公益財団法人 岩手生物工学研究センター 主任研究員 山田 秀俊

計画の要約：三陸産のイサダから抽出したオイル成分を活かしたサプリメントの販売。オイル成分には、抗肥満成分の8-HEPEに加え、脳の働きを良くするプラズマローゲンの元となるアルキルリン脂質、EPAやDHAなども豊富に含有していることが研究機関の実証実験で証明されている。当社では、令和2年に国内初の遠心分離機を使用したオイル抽出工場「クリルオイルプラント」の操業を開始。当プラントで抽出したオイルを他社工場で粉末加工し、それをカプセル状の「桜こあみパウダー」として製品化した。（現時点では、ヒト臨床試験は経ておらず、加工食品扱）

贈呈金額：100万円

以上